

2017年3月期第1四半期決算に関する主なご質問

2016年8月1日

- Q: 第1四半期の業績は堅調のようですが、上期業績見通しを据え置きにしているのは、第2四半期の業績が第1四半期より落ちる見通しなのでしょうか。
- A: 第2四半期は顧客の夏季休業による需要減少等の季節要因を想定しています。期初発表の計画達成を目指しています。
- Q: 通期業績見通しも据え置きにされています。円高による収益へのマイナス影響を、事業のアップサイドで相殺するとのことですが、具体的にはどの地域・ビジネスで吸収するのでしょうか？
- A: 主に欧州事業の改善です。現在事業が好調な地域は、建築用ガラスの欧米地域、東南アジア、南米および自動車用ガラスの欧米です。
- Q: コスト改善の具体的な取り組みは何ですか？
- A: 製造変動費は毎年一定の目標を置き改善を続けています。固定費はリストラ努力も含めて削減しています。加えて、間接費削減にも取り組んでいます。
- Q: 欧米自動車用ガラスで生産性が改善したということですが、具体的にどのような取り組みを行ったのですか？
- A: 歩留りの改善、生産効率の改善、生産ラインの操業見直しを行い、コストベースを改善しています。
- Q: 欧米建築用ガラスの価格動向はどうなっていますか？
- A: 欧米とも代表品種の価格は前年比15%上昇しています。これ以上の価格上昇は期待していませんが下落も想定していません。今後とも製品構成の高付加価値品割合を改善し、利益増加に取り組んでまいります。
- Q: 高機能ガラス事業での、新製品の受注に向けての取り組みの進捗はいかがですか？
- A: 新製品群のうち、特に重要な製品はディスプレイ分野の glanova®です。当初の予定通り進捗しています。顧客先での認定を得ており、採用に向けての重要なマイルストーンが達成できたことに自信を深めています。
- Q: 南米の建築用ガラス持分法会社の損益が前年比悪化していますが、その背景と今後の見込みはどうですか？
- A: 南米市場の低迷を受けて前年比落ち込みましたが、引き続き黒字を維持しています。通期持分法損益は業績見通しから変更ありません。
- Q: 円高で自己資本が目減りしていますが、事業と資金調達への影響はありますか？
- A: ガラスは原則、現地生産現地販売であり、ビジネスへの直接の影響は限定的です。資金調達については銀行とよくコミュニケーションをとっており、問題ありません。
- Q: 個別開示項目で、欧州の減損が含まれているが、具体的にはどの設備で減損が発生したのですか？
- A: ドイツの型板ガラスの窯を停止します。同時に本施策によりリストラ費用も発生しています。英国の型板ガラス窯に生産を集約し固定費削減と稼働率向上による損益改善を期待しています。
- Q: フリー・キャッシュ・フローは今期黒字化の見込みで変更ありませんか？
- A: 第1四半期も計画以上に改善しており、今期計画通り黒字化を見込んでいます。

当資料の業績見通しは、当社が現時点で入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提のもとづいており、実際の業績は見通しと異なる可能性があります。その要因の主なものとしては、主要市場(欧州、日本、北米、アジア等)の経済環境及び製品需給の変動、為替相場の変動等があります。